

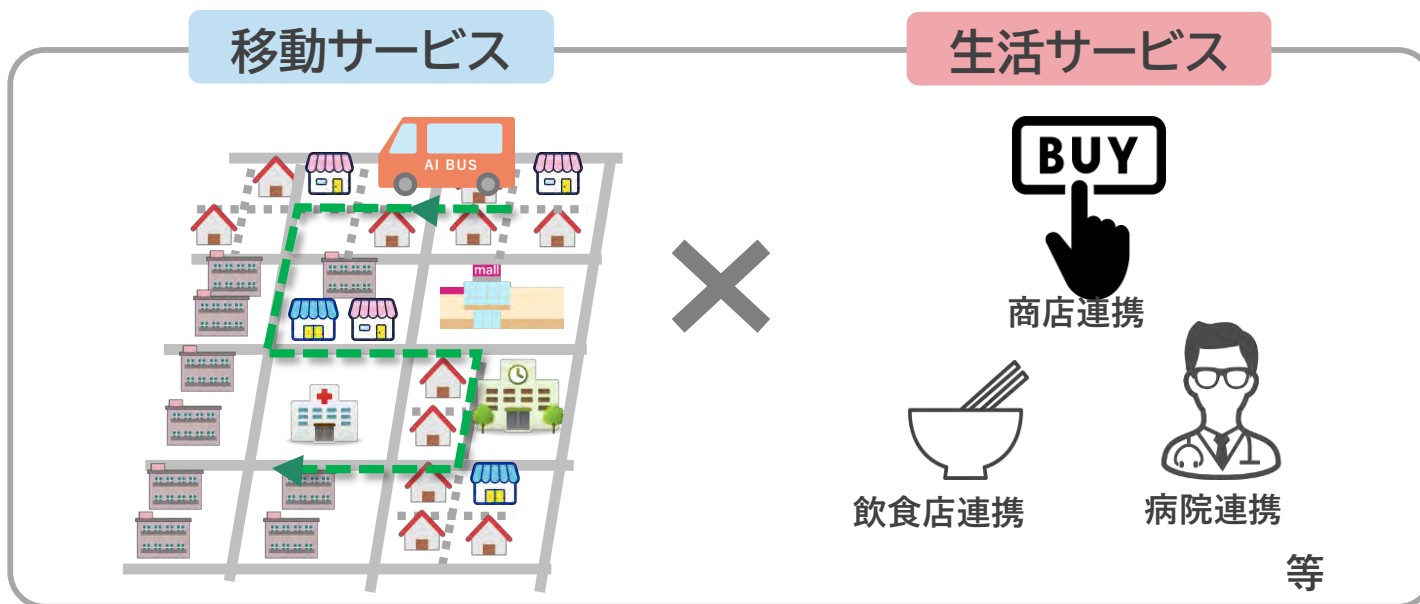
旭区旭北地区オンデマンド実証実験

2 0 2 4 年 3 月 2 6 日

横浜市都市整備局都市交通課

- 1 実証実験の目的
- 2 旭北地区の特徴
- 3 実証実験(案)
- 4 スケジュール(案)

1. 実証実験の目的(検討を進めている移動サービス像)



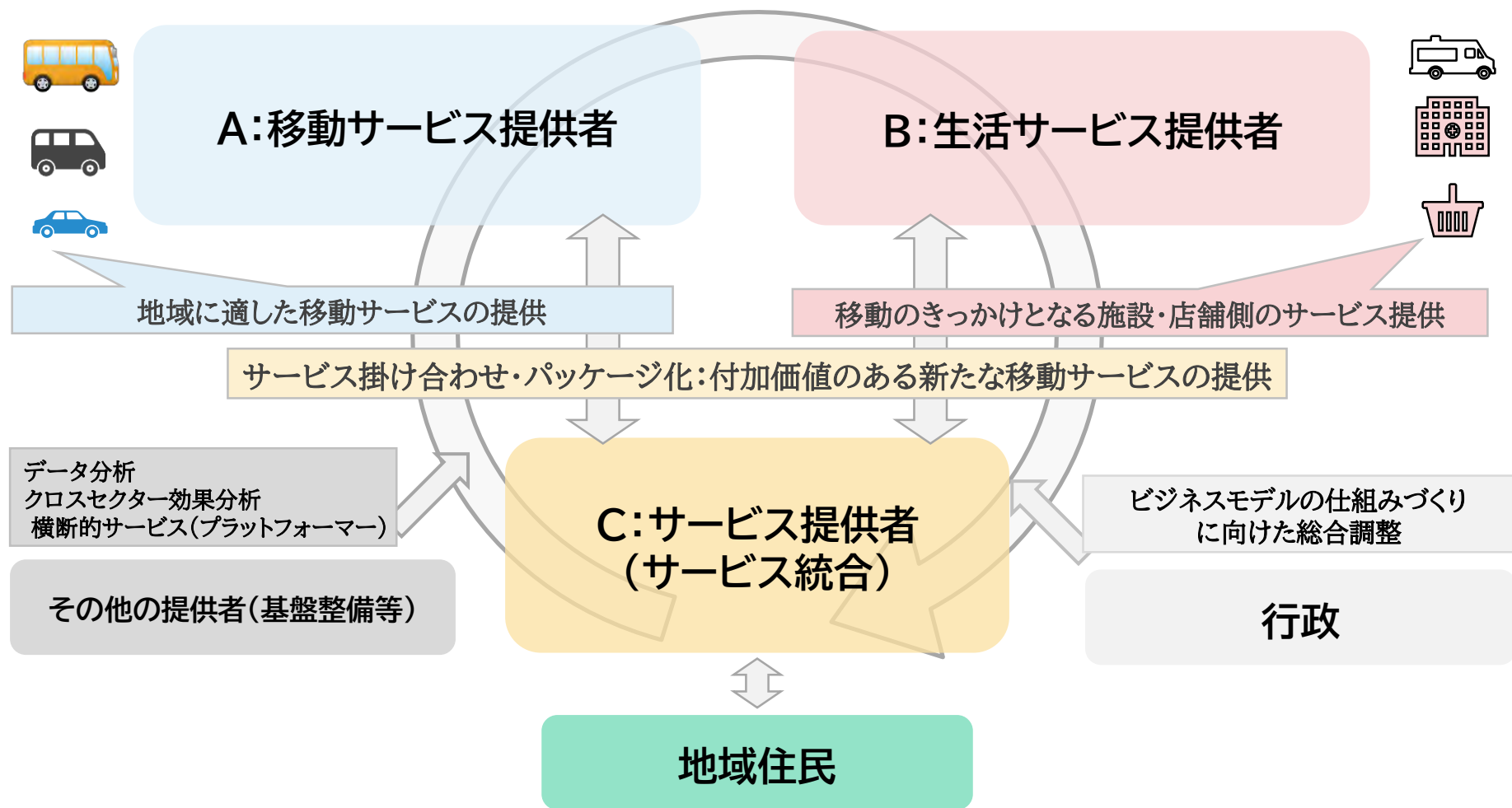
健康増進
新たな財源確保
公共交通の利用促進

移動総量の増加

地域経済活性化
コミュニティの活性化
環境負荷低減

まちの魅力・価値の向上を目指す

1. 実証実験の目的(目指すべきビジネスモデルに係る連携のイメージ)



**移動サービスと生活サービスの
掛け合わせによる新たな価値の提供**

1. 実証実験の目的(参考)

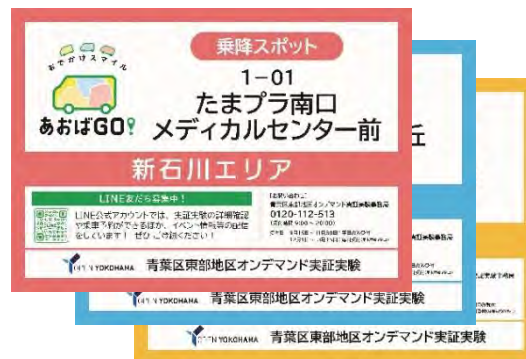
先行する取り組み

- ・ 場所:青葉区東部地区(新石川地区、美しが丘地区、あざみ野地区周辺)
- ・ 地域の課題:傾斜が厳しい、子育て世代が多い
- ・ 概要:駅周辺の傾斜が厳しい地域において、短距離の移動支援のためのデマンド交通の実証実験を実施。官民連携の体制で実施し、周辺の施設と連携し、連携施設の利用者に1回分のデマンド交通の運賃が無料となる交通チケットの導入を検証。

活用した車両



乗降スポットの看板



交通チケットの配布



連携する施設での買物・通院などのサービスをご利用の方々には、デマンド型乗合交通の1回分の運賃が無料になります！



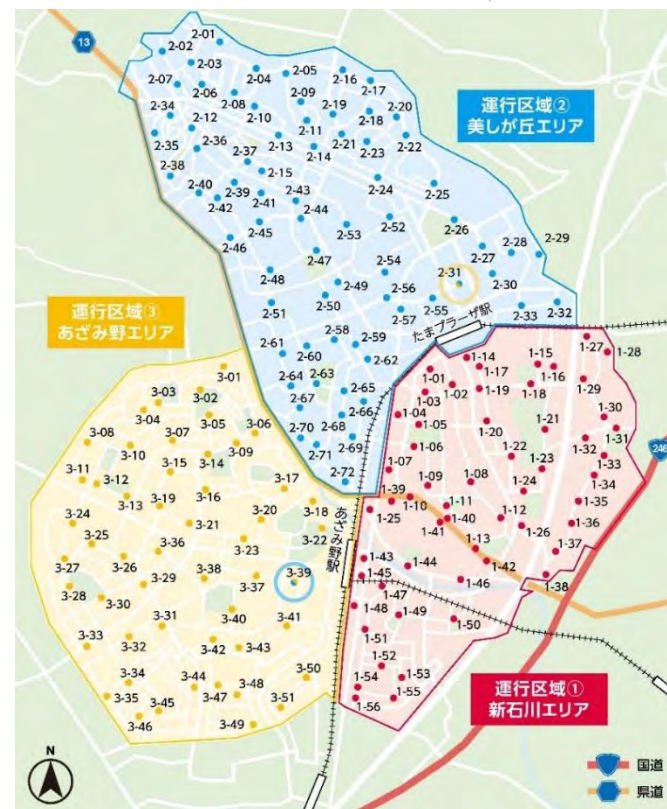
施設の利用・買物
レシート提示
交通チケット配布



交通サービス
の利用



対象エリア・乗降スポット・連携施設

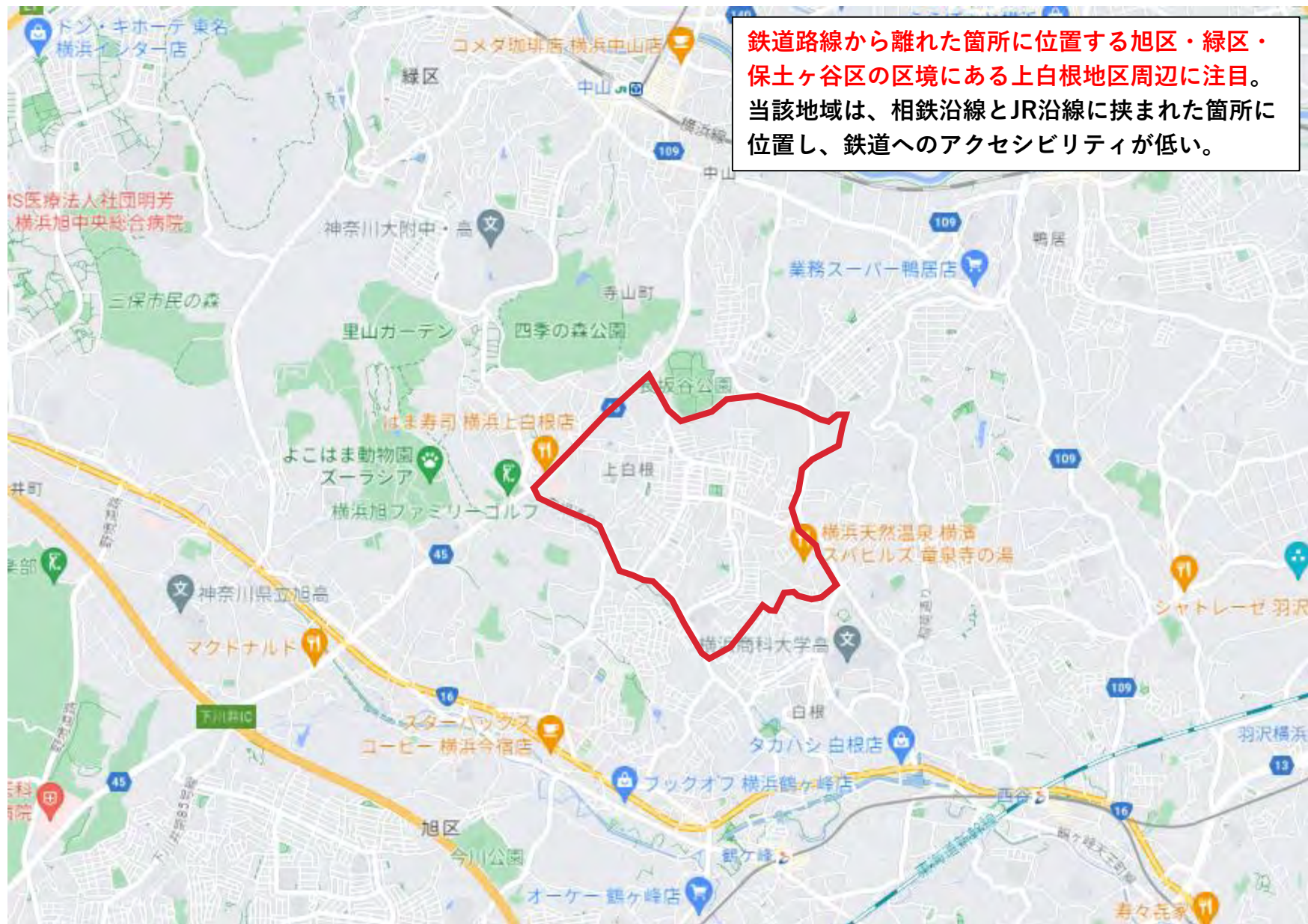


現在の利用状況(1月末時点)

項目	新石川	美しが丘	あざみ野	3地区合計
総利用者数	3,841人	2,845人	1,469人	8,155人
日平均利用者数 (1月)	44.7人	37.8人	17.6人	100.1人

- ・ 上記地区は継続して実現化に向けた検討を実施
- ・ 並行して、異なる特徴を持つ他の地域への展開方法の検討が必要

2. 旭区旭北地区の特徴(案内図)



2. 旭区旭北地区の特徴(地域ニーズ)

■第4期旭区地域福祉保健計画(旭北地区)

目標C 和み親しめるまちづくり

<生活の利便性向上>

- ・コミュニティバスの検討
- ・移動スーパーの検討

→地域が提案・交渉し、スーパー・福祉施設との連携により実現したが、利用が少ない場所もあるのでアクセスの課題などを確認中。

■旭区タウンミーティング(令和4年8月)でのご意見

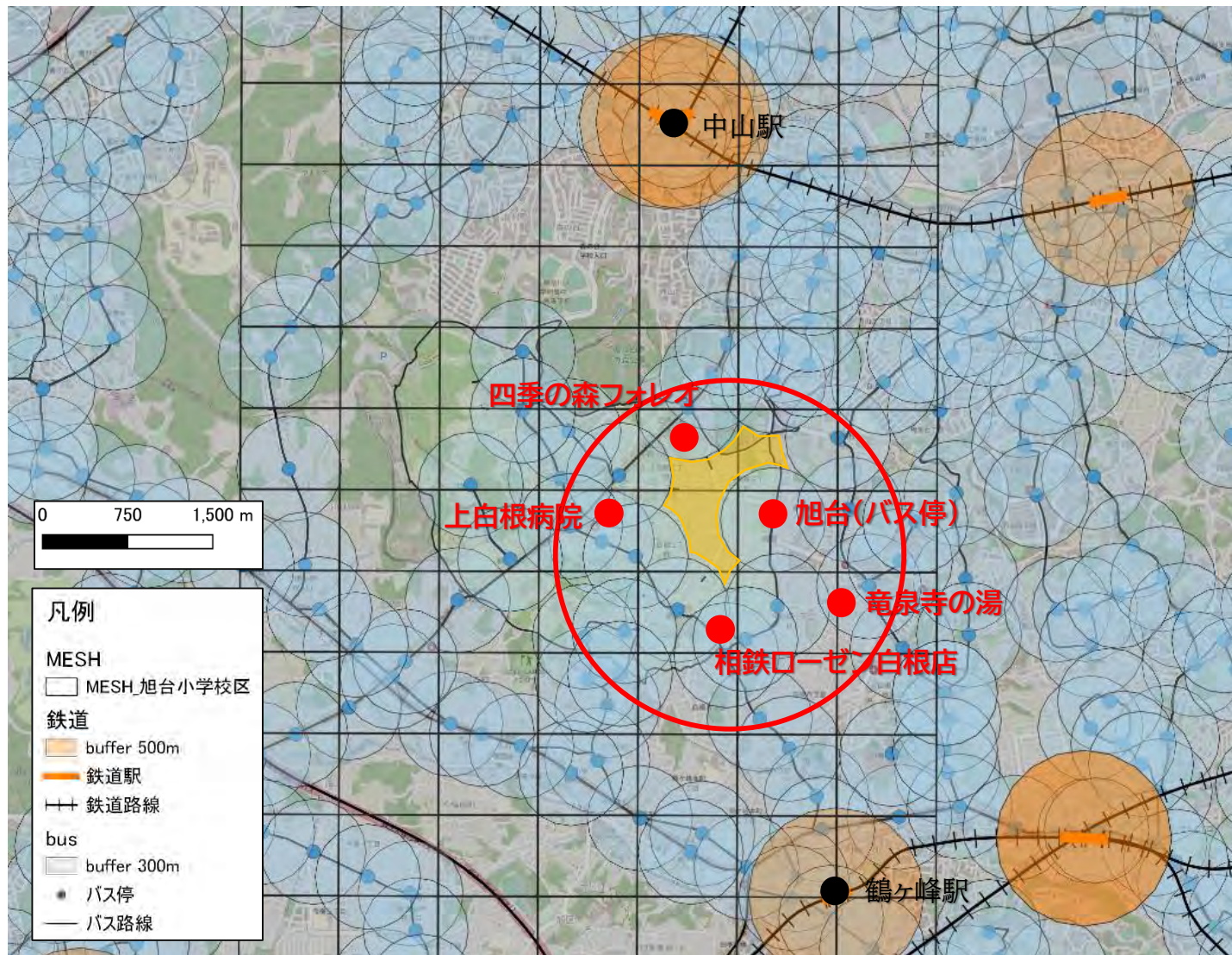
- ・坂道が多いので住宅地内にバス停、路線バス、コミュニティバスを増やしてほしい。
- ・住宅街の中に移動販売や地域循環バスとかあればいい。

■地域へのヒアリング、アンケート結果

- ・坂道の移動が難しいことから外出をあきらめている高齢者がいる
- ・スーパーや病院、公園、温泉施設、駅など、さまざまな目的地へのニーズがある
- ・タクシーを日常利用するには料金の抵抗があり、予約できない時間もある

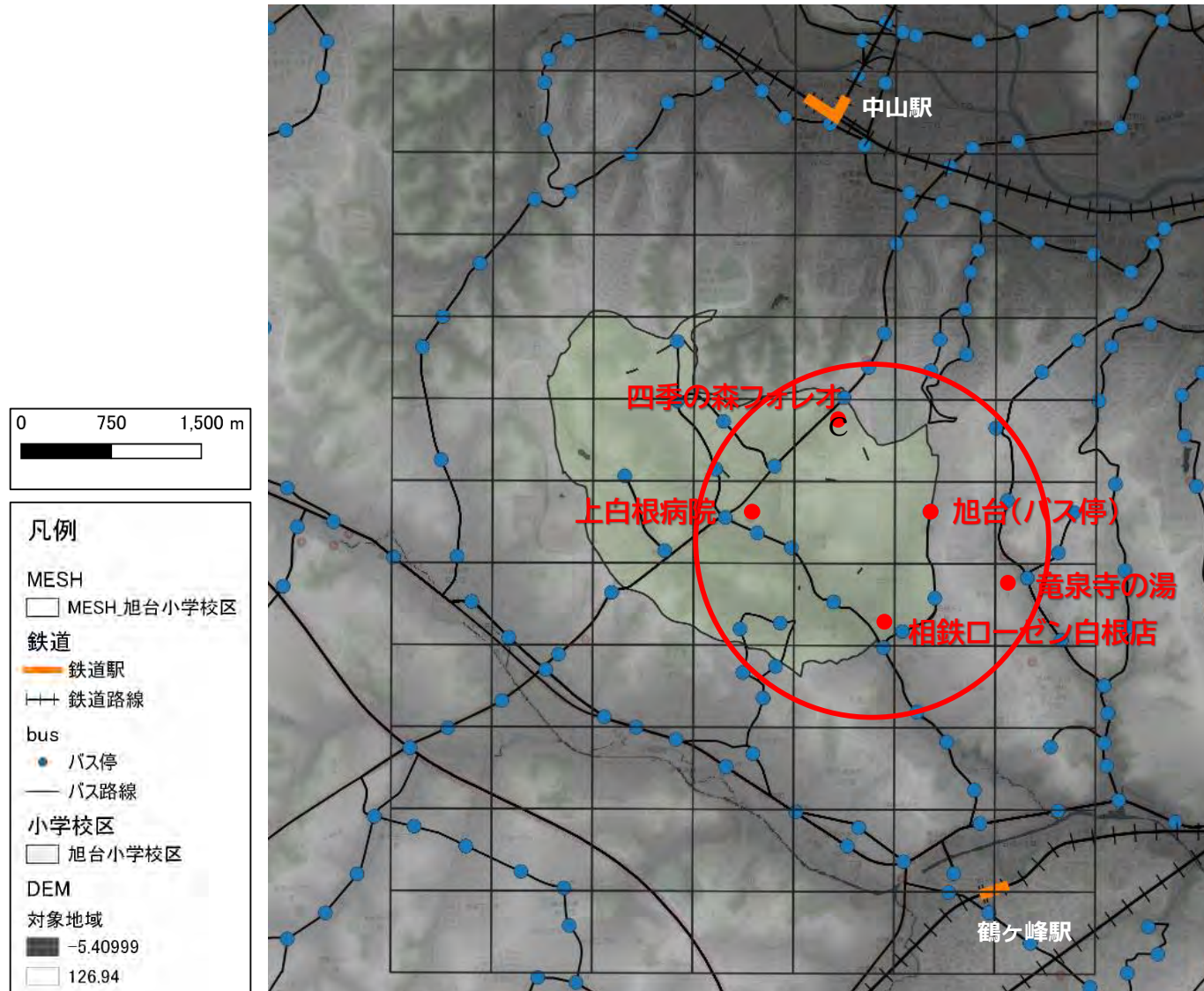
2. 旭区旭北地区の特徴(公共交通へのアクセス)

バスの便数は充実していますが、一部、バス停までのアクセスに不便なエリアがあります。



2. 旭区旭北地区の特徴(地形)

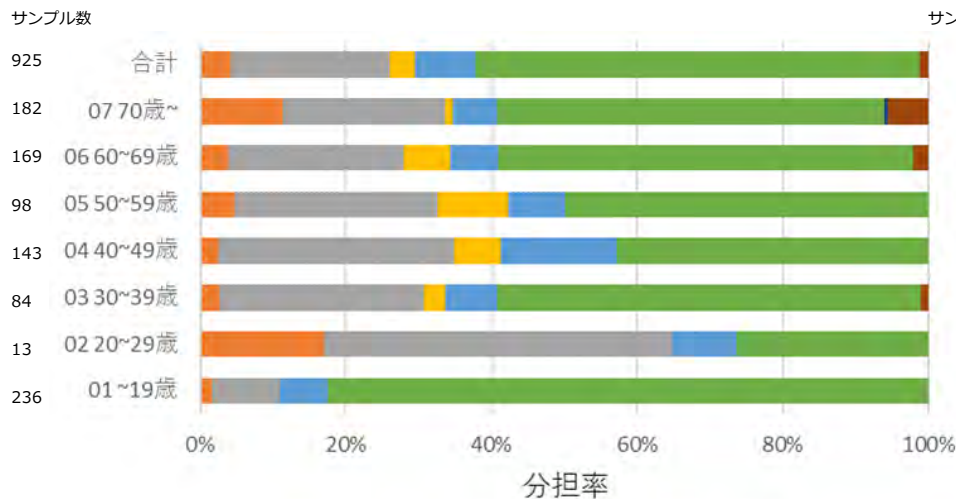
全体的には起伏は大きくありませんが、一部、高低差が大きい箇所がみられます。



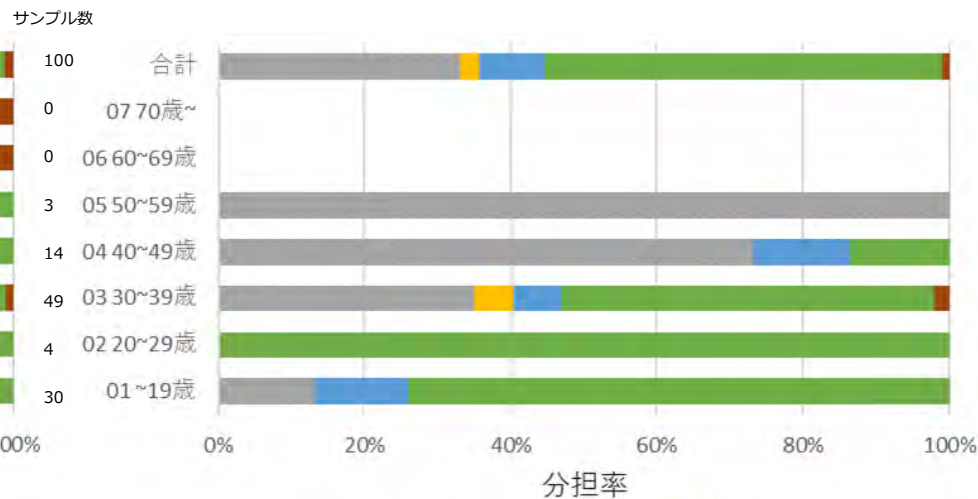
2. 旭区旭北地区の特徴(エリア内移動の代表交通分担率)

- 全体的には**徒歩が半分程度であり(約6割)**、続いて**自動車(約2割)**が多く利用されています。
- **20代・70代ではバスの分担率が比較的高い傾向がみられます。**
- また**20代や幼児のいる世帯では自動車の分担率が高い傾向がみられます。**

■年齢別分担率



■年齢別分担率 (5歳未満あり世帯)



2. 旭区旭北地区の特徴(総括・仮説)

■総括

- ① 地域としても移動課題解決のニーズがある
- ② 公共交通へのアクセシビリティに課題がある(特に東西方向への移動に課題がある)
- ③ 主要な拠点となる生活サービス施設が点在しており、アクセシビリティに課題がある



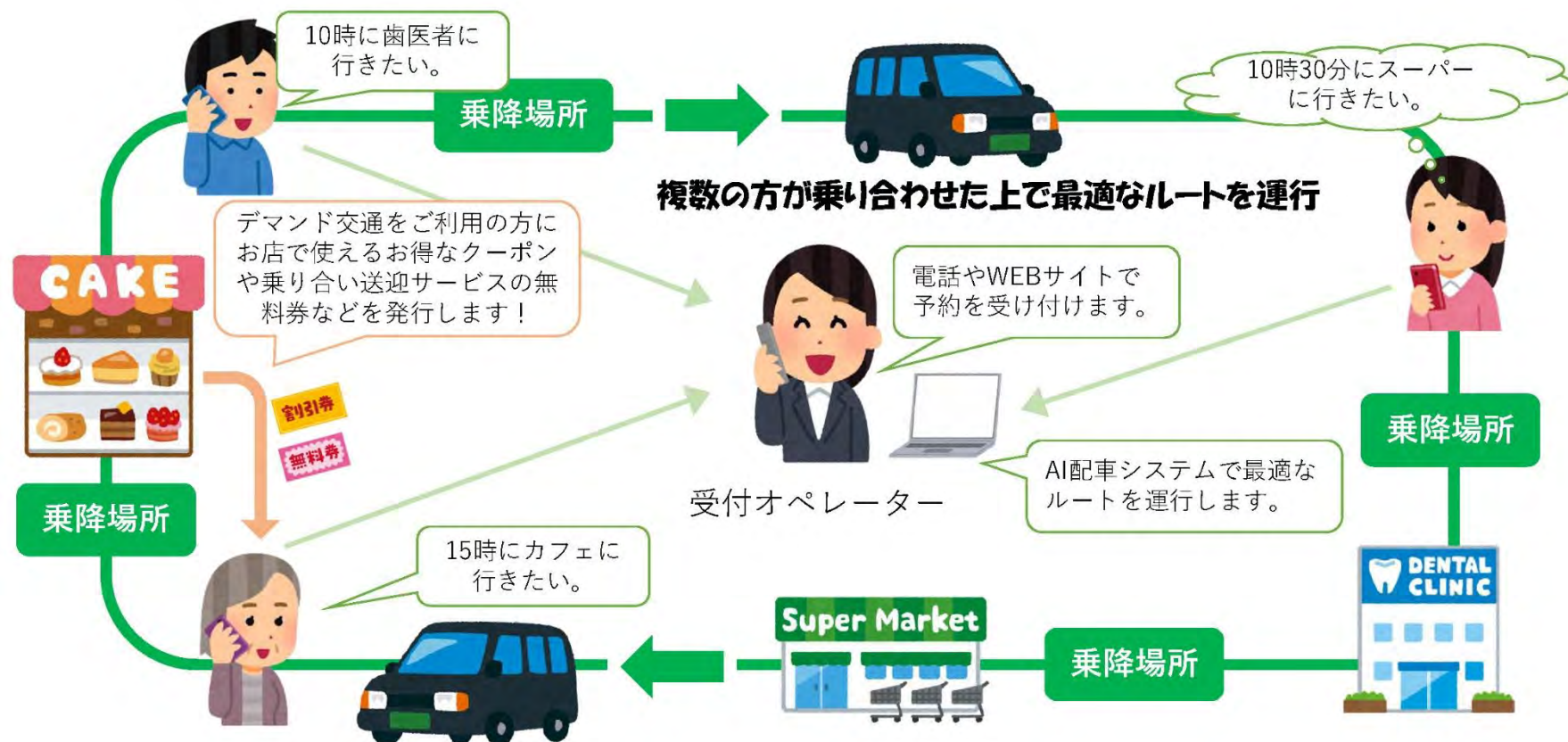
仮説

主な移動手段が徒歩、自動車のエリアであるため、

- ・ 移動手段が徒歩の方は、山坂の移動やバス停までの移動が原因で外出機会の損失につながっている可能性がある
- ・ 自動車利用者は、移動先の駐車場確保が必須だが、必要数が確保できておらず、外出機会の損失につながっている可能性がある。
- ・ 高齢化(免許返納など)により将来的に自動車を手放すにあたり、徒歩移動の可能なエリアに移り住まれる可能性がある

3. 実証実験(案)

■オンデマンド交通



オンデマンド交通＝バスとタクシーの間のサービス
バスよりも短い距離の移動、身近な施設への移動が便利になる

3. 実証実験(案)

■生活×移動サービスの連携方法

連携する施設の利用者に対し「交通チケット」を配布し、オンデマンド交通の利用促進や連携施設への送客効果を検証

交通チケットの 発行



事務局にて
作成・発行

送付



交通チケットの 設置・配布



地域コミュニティ

複合商業施設

飲食店
(路面店舗)

医療施設

チケット配布



施設利用

利用者



地域住民
(実験参加者)

オンデマンド交通
サービス利用



移動サービスの 利用



オンデマンド交通にて
料金支払い時に回収

4. スケジュール(案)

※国補助金の採択状況により変更の可能性あり

